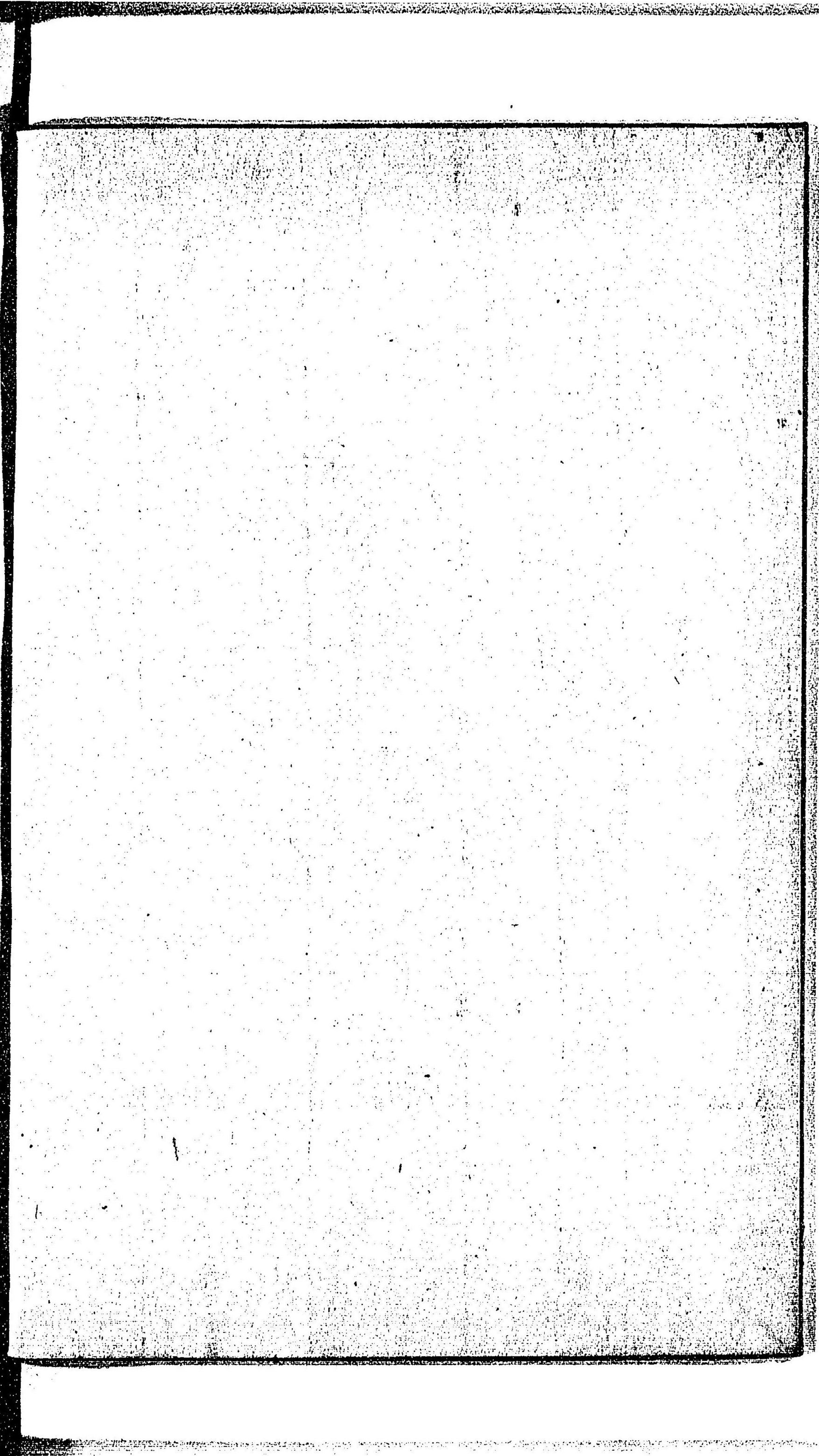
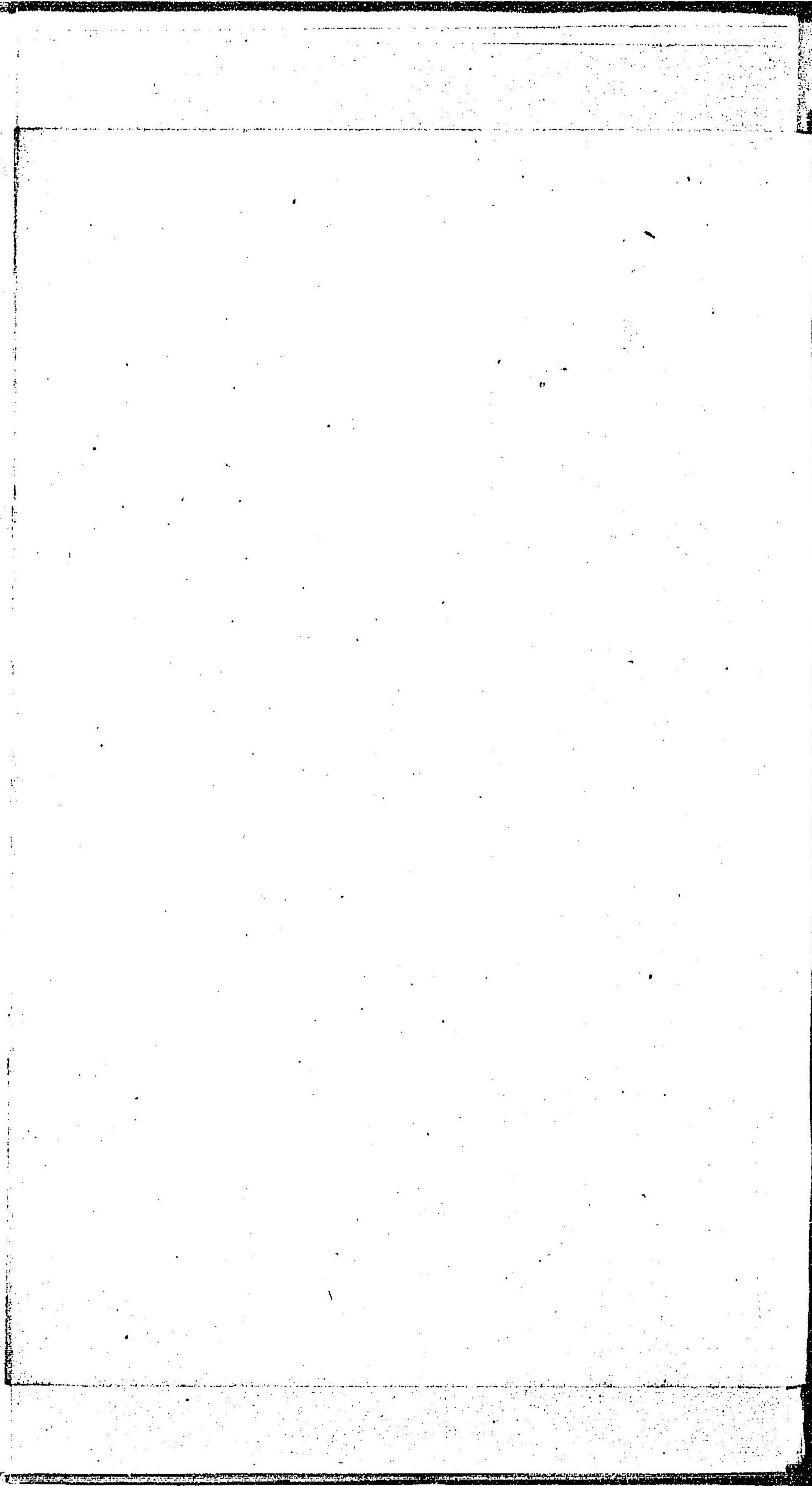


特42
7
452

白樂天
少子孫
聖宮
龍岩
島麻

255
82



白樂天



白樂天

白樂天の詩集

白樂天の詩集

白樂天の詩集

白樂天の詩集

白樂天の詩集

白樂天の詩集

明治
40 8 4
内交

上月ノ入書ニハ沖津浪ツナくだり
ニハ唐ノ船フネありし海ウミニハ唐ノ
舟路フネミチノ様サマニハ夜ヨとありし間
ハ日ヒモ海ウミニハ日ヒノ方カタニハ

日ヒノ方カタニハ波ナミ清スガと濁クダし日ヒノ方カタニハ
日ヒノ方カタニハ船フネ一艘イツボネありし間
ハ日ヒノ方カタニハ

漁イサおみりし日ヒノ方カタニハ

日ヒノ方カタニハ唐カラノ白樂ハクラク天テンを有アす

日ヒノ方カタニハ唐カラノ船フネありし間

日ヒノ方カタニハ唐カラノ船フネありし間

日ヒノ方カタニハ唐カラノ船フネありし間

日ヒノ方カタニハ唐カラノ船フネありし間

日ヒノ方カタニハ唐カラノ船フネありし間

心は憂^{ウレ}はよ^ヨ日^ヒ幸^{コト}よ^ヨ奇^キはよ^ヨ女^メはよ^ヨう^ウう^ウう^ウ
あ^アま^マさ^サら^ラう^ウを^ヲ歌^カら^ラぬ^ヌら^ラま^マ 天^{テン}空^ク
の^ノ憂^{ウレ}文^{ブン}と^ト唐^{タウ}の^ノ詩^シ賦^ヒと^ト唐^{タウ}の^ノ侍^シ賦^ヒ
を^ヲ我^ガ朝^{チウ}の^ノ亭^{テイ}と^ト三^{サン}國^{クニ}を^ヲか^カこ^コひ^ヒ舞^マひ^ヒ
ゆ^ユひ^ヒて^テ大^{ダイ}を^ヲた^タ和^ワく^ク歌^カを^ヲま^マす^スて^テ大^{ダイ}和^ワと^ト
う^ウあ^アら^ラう^ウ幸^{コト}を^ヲか^カこ^コひ^ヒう^ウう^ウう^ウう^ウ
と^ト心^{シン}は^ハ憂^{ウレ}は^ハよ^ヨ日^ヒ幸^{コト}よ^ヨ奇^キは^ハよ^ヨう^ウう^ウう^ウ

心^{シン}は^ハ憂^{ウレ}は^ハよ^ヨ日^ヒ幸^{コト}よ^ヨ奇^キは^ハよ^ヨう^ウう^ウう^ウ
あ^アま^マさ^サら^ラう^ウを^ヲ歌^カら^ラぬ^ヌら^ラま^マ 天^{テン}空^ク
の^ノ憂^{ウレ}文^{ブン}と^ト唐^{タウ}の^ノ詩^シ賦^ヒと^ト唐^{タウ}の^ノ侍^シ賦^ヒ
を^ヲ我^ガ朝^{チウ}の^ノ亭^{テイ}と^ト三^{サン}國^{クニ}を^ヲか^カこ^コひ^ヒ舞^マひ^ヒ
ゆ^ユひ^ヒて^テ大^{ダイ}を^ヲた^タ和^ワく^ク歌^カを^ヲま^マす^スて^テ大^{ダイ}和^ワと^ト
う^ウあ^アら^ラう^ウ幸^{コト}を^ヲか^カこ^コひ^ヒう^ウう^ウう^ウう^ウ
と^ト心^{シン}は^ハ憂^{ウレ}は^ハよ^ヨ日^ヒ幸^{コト}よ^ヨ奇^キは^ハよ^ヨう^ウう^ウう^ウ

亦とらふまてお證奇よの孝懐天皇に
如きとらふまて大和國高天の寺
乃梅ヶ枝の芽の影声は初陽
毎朝来不傳還幸柶となす文堂
ふしと見えたり三十一年乙酉
のころあしきものまつはるし
とにさしめしをあらさるる事

本_トの柶_ヒとゆ_ハは_ハら_ハる_ハの_ハ聲_ハ
を_シ始_メて_ハ其_ノ外_ニ鳥_ノ類_ノ畜_テ野_ニを_シ人_ノは
た_クて_ハた_クを_シた_クい_ハり_ハさ_マ多く_ク有_テ磯_ノ海_ノ
の_ハ濱_ニは_ハ真_ノ砂_ノ乃_ハ敷_テま_ハり_ハさ_マり_ハさ_マり_ハさ_マり_ハ
を_シの_ハいつ_シも_ハた_クを_シと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハ
國_ノ風_ノ俗_ノの_ハく_ハ心_ノ有_テる_ハ海_ノ女_ノ人_ノの_ハ宮_ニ
だ_シり_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハな_リと_ハ
は_ハ和_ノ國_ノの_ハ聲_ハ

和歌を詠んで舞子の曲其をいさ
歌えんさむむ舞樂にあそび
其後この詠えん 大分郡 さまあくとそを
は流きよむらさき 四三 舞樂に鼓ハ
波の音笛音龍れ吟を歌ふ 四三 人共
み尉ら若の浪のよまらうて 三 青海
そむいほ海青樂をまらる 大分郡

特許
あそびに 四三 國を 三 萬代 三 延
相シテ 四三 山陰乃 三 づつ 三 り 三 水も 三 赤き 三 海の
浪の 三 靑 三 海青 三 樂 三 西の 三 海 三 あ 三 づ 三 り
愿 三 此 三 波 三 向 三 かり 三 舞 三 歌 三 れ 三 出 三 舞 三 歌 三 此 三 神 三 舞 三 歌
ま 三 め 三 ぐ 三 の 三 神 三 す 三 ま 三 ぐ 三 の 三 題 三 舞 三 歌 三 出 三 舞 三 歌
舞 三 歌 三 此 三 神 三 の 三 力 三 乃 三 あ 三 づ 三 り 三 舞 三 歌 三 出 三 舞 三 歌
よ 三 ぞ 三 日 三 奉 三 と 三 る 三 舞 三 歌 三 出 三 舞 三 歌 三 出 三 舞 三 歌

速く〜
位ぐ〜
如常春日康鳴〜
安瀆の瀛海〜
の第三の娘宮子〜
青樂さあ〜
此曲は奏〜

あき〜
も〜
ゆ〜
何〜
回〜

忠慶

早傳四方

花^未の心は^早に^傳は^りて^心を^持て^て不^たか^く念^はず

子^早の^傳は^りて^心を^持て^て不^たか^く念^はず

清^早の^傳は^りて^心を^持て^て不^たか^く念^はず

世^早の^傳は^りて^心を^持て^て不^たか^く念^はず

我^早の^傳は^りて^心を^持て^て不^たか^く念^はず

子^早の^傳は^りて^心を^持て^て不^たか^く念^はず

上城^{ナカ}南の離宮よ赴き^{ナカ}都を^{ナカ}購つる山
磯^{ナカ}も岡^{ナカ}戸^{ナカ}を^{ナカ}客^{ナカ}公^{ナカ}を^{ナカ}た^{ナカ}と^{ナカ}して^{ナカ}泊^{ナカ}りも
ま^{ナカ}ま^{ナカ}ぬ^{ナカ}様^{ナカ}の^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}浮^{ナカ}き^{ナカ}い^{ナカ}つ^{ナカ}も^{ナカ}海
し^{ナカ}も^{ナカ}う^{ナカ}の^{ナカ}塵^{ナカ}を^{ナカ}う^{ナカ}り^{ナカ}世^{ナカ}の^{ナカ}茶^{ナカ}河^{ナカ}粒
名^{ナカ}れ^{ナカ}小^{ナカ}藤^{ナカ}と^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}く^{ナカ}月^{ナカ}を^{ナカ}寄^{ナカ}る^{ナカ}思
湯^{ナカ}芝^{ナカ}池^{ナカ}と^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}清^{ナカ}く^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}て^{ナカ}
上^{ナカ}芦^{ナカ}の^{ナカ}葉^{ナカ}の^{ナカ}り^{ナカ}又^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}く^{ナカ}し^{ナカ}て^{ナカ}

ま^{ナカ}れ^{ナカ}と^{ナカ}其^{ナカ}事^{ナカ}の^{ナカ}捨^{ナカ}り^{ナカ}又^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}有^{ナカ}馬^{ナカ}山
か^{ナカ}れ^{ナカ}ら^{ナカ}ぬ^{ナカ}だ^{ナカ}ら^{ナカ}世^{ナカ}中^{ナカ}を^{ナカ}う^{ナカ}り^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}
乃^{ナカ}多^{ナカ}く^{ナカ}枕^{ナカ}の^{ナカ}鐘^{ナカ}を^{ナカ}う^{ナカ}り^{ナカ}輕^{ナカ}皮^{ナカ}の^{ナカ}跡^{ナカ}を^{ナカ}鳴^{ナカ}
尾^{ナカ}尾^{ナカ}仲^{ナカ}な^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}く^{ナカ}

ま^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}て^{ナカ}是^{ナカ}の^{ナカ}ま^{ナカ}津^{ナカ}田^{ナカ}の^{ナカ}浦^{ナカ}と
う^{ナカ}か^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}又^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}て^{ナカ}一^{ナカ}本^{ナカ}の^{ナカ}花^{ナカ}を^{ナカ}
乃^{ナカ}多^{ナカ}く^{ナカ}作^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}て^{ナカ}あ^{ナカ}ら^{ナカ}し^{ナカ}て^{ナカ}

シテト
餘ヒ愚クあふ僧ノ侍ニ説クなむか
空ニ也ハ浪ノ磨ノうニまニ行ハまニうニ
らニんニそレ花ノよニつク花ノまニぬル花ノや
山ノ花ノうニまニ音ノもニうニりトまニつク
のニ若ク果ク乃ハ梅ノ海ノさニらニだニもニ湯ニ
花ノもニうニつク花ノよニつク梅ノもニらニらニ梅
とニわニらニ日ノとニまニへニつク夜ノとニ音ノとニ借ト

久ニ矣ト松ノ窟ノうニまニつク花ノさニらニらニ花ノ
花ノのニ浪ノ程ノ乃ハ花ノをニらニらニ花ノのニ花ノ
花ノ窟ノあニれトもニ花ノとニあニつク花ノとニあニつク
行ノ鼻ノくニ花ノ下ノ陰ノとニ花ノとニあニつク花ノ
今ノ宵ノとニあニつク花ノとニあニつク花ノとニあニつク
人ノもニ花ノのニ下ノ旁ノにニ花ノとニあニつク花ノ
なニもニ海ノとニあニつク花ノとニあニつク花ノとニあニつク

申すに僧たちらへあはれ縁なかり
弟は縁をみおろくるはまきん人
これ行暮てあはれ縁を若き人
と書りてあはれ縁と縁うへ
薩摩守忠度さし入るに
かく書りてあはれ縁の人を
一巻のあはれ縁と書りて

ふかきも復成の和歌のなを
あまき宿き今書りてあはれ
あはれ忠度の声もきくはる
あはれ縁もあはれ縁や今書りて
あはれ縁もあはれ縁や今書りて
あはれ縁もあはれ縁や今書りて
あはれ縁もあはれ縁や今書りて
あはれ縁もあはれ縁や今書りて
あはれ縁もあはれ縁や今書りて
あはれ縁もあはれ縁や今書りて

なんの何の故かぐあひして
本僧の
とらへ申さしめて思入カク本ハクの
日
よりの花のけしむくシ愛シた若シ心
は行く教の言傳へ入るる花の
陰と影さうりさうりさうりあり
とまきくシ油シのシ心シをシ統シ
くシ心シをシかシらシるシかシらシるシかシらシるシ

珠のりよまはたむかひて
まよひたむかひたむかひたむかひ
心シをシかシらシるシかシらシるシかシらシるシ
まをシかシらシるシまをシかシらシるシまをシかシらシるシ
吉くまのまの雨後のもほろもろ
巻シ魄シまシらシるシまシらシるシまシらシるシ
中シ心シをシかシらシるシまシらシるシまシらシるシ
まシらシるシまシらシるシまシらシるシまシらシるシ

何中これ千載集のてき品より入
たきこも勅勘の才に斯く及ばぬ
まじきと仰りてまじき執の中
第一ありしとてまじき撰し給ひ
一信成さるるを成給ひの事
内より入ありて今の定家君
奏し給ふる作さるるひくひ

後人と夢物語りて波乃浦内を心
きよき愛が和歌の家を其るを
皆に敷海乃ひくひし事人倫
まぬりて専なり^{早サレ}中も破忠度
文武二通とひ給ひて世より眼
高^{因下}一 頼后白河院の侍字より
載集より五條に三位俊成

ふきあり 跡と 跡と 本陰
まねの 霜と 霜と 霜と
あつき

野宮

^{ワキ傍} 翠の 所 石 僧 寺 跡 此 都
ふらふら 洛陽の 寺 社 跡 あり ねえ ね
ふらふら 秋も あり ねえ ね
磯野の 跡と 霜と 霜と
今 西の 山 あり ねえ ね
まねの 野宮 跡と 霜と

所^ニ行^ク方^モも^シ女^ノ身^ヲも
う^マ下^ニ行^クは^シる^ハ痛^クなり
給^クは^シる^ハ思^ハふ^ハ可^クなり
か^レぬ^ハ事^ノ成^ル事^ノ成^ル事^ノ成^ル
捨^テ人^ノの^身を^捨て^ル事^ノ成^ル
子^ノ跡^ヲを^留め^テお^キて^置く^事
給^クは^シる^ハ思^ハふ^ハ可^クなり

^{シテ}光^源氏^ノ法^門ノ^一家^ニ給^クハ^シる^ハ長^月
七日^ノ日^ノ分^ノ少^キ事^ノ成^ル事^ノ成^ル
う^マ下^ニ行^クは^シる^ハ痛^クなり
給^クは^シる^ハ思^ハふ^ハ可^クなり
か^レぬ^ハ事^ノ成^ル事^ノ成^ル事^ノ成^ル
捨^テ人^ノの^身を^捨て^ル事^ノ成^ル
子^ノ跡^ヲを^留め^テお^キて^置く^事
給^クは^シる^ハ思^ハふ^ハ可^クなり

まのりも七の今お路の林の枝をば
りまのりも七の今お路の林の枝をば
かきぬ色うとるさうのさう
常盤のうけの 森を下さり秋
くなく ちきりうもり 遠茅の原
まのりも七の今お路の林の枝をば
宮をく 跡なう けきさうを

其長月の七日若日も今もめくら
まのりも七の今お路の林の枝をば
假初のほきぬひ今も火燵の
かきぬ色うとるさうのさう
まのりも七の今お路の林の枝をば
宮をく 跡なう けきさうを

色どちかりし時わ花の色香遠
妹背の心涼くしきりし時 會者
空離るあくるさかよひも 鶯くし
し夢の世と程おくはるは遠
きと ちとー もあーくは丸露の
光徳氏の日記りなるを思ひくよ
行通よ心の世々の志を念へん

又たえくの中あしき
そのふるさとしらふおもひたまたま
さしづけあつる言よふ入はさし
心物まありんる秋の花をば
うけて出は声えくれくる風
のしるきもあくる世をば
秋哀しむるさをあかしし君

愛よまじりて木よみよみよみよみよ
くびくはむくはむくはむくはむくは
くのこころはむくはむくはむくは
其はくはくはくはくはくはくはくは
けくはくはくはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくはくはくは
鈴麻河八十洲の波よみよみよみよ

伊勢の誰か思ひのこころはくはくは
行事をたぬあはくはくはくはくは
竹の初語よみよみよみよみよみよ
くはくはくはくはくはくはくはくは
みんたなはくはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくはくはくは
きよきよきよきよきよきよきよきよ

可しきしきもしきもしきもしきも
あつたをささるるむかへに
同くあつたをささるるむかへに
毛ささるるむかへに

あつたをささるるむかへに
秋の風をささるるむかへに
あるも下れ思ふもささるるむかへに

かゝつたをささるるむかへに
あつたをささるるむかへに
夜く回つたをささるるむかへに
あつたをささるるむかへに
あつたをささるるむかへに
あつたをささるるむかへに

つゝかゝるをいふ所の細代の下きり
思ひつゝは野あり今に
可もさく白雲のまきまき
さもつゝはなをいふ
車さつゝは海にゆき其の
かまのふたなるそら
うれそを白露の河をいふ

あゝつゝは物に
うゝまゝの車人
ひきつゝは其の
のるつゝは
車は
人様より
ふか

花の 露を 露に 思ひ 寄る 人の 心
も 行 事 を 翻 の 心 事 だ け
し 事 の 花 乃 小 車 だ ち かく
さ け け け け け け け け け
を 念 昔 上 海 花 の 油 月 光
な ん じ じ じ じ じ じ じ じ
や だ だ だ だ だ だ だ だ だ

露 花 の 露 乃 小 車 だ ち かく
昔 上 海 花 の 油 月 光
な ん じ じ じ じ じ じ じ じ
や だ だ だ だ だ だ だ だ だ
小 葉 垣 露 乃 小 車 だ ち かく
新 色 世 人 毛 中 夢 女 世 ぬ かり 行 跡
か げ け け け け け け け け
や だ だ だ だ だ だ だ だ だ

花の露もさびしう思ひて
もはく事をも翻りて
しもの程も乃小車に
まはりてのさびしう
を念ふ昔よゆの月を
なみもさびしう野宮の月を
やもさびしう本林の下

露もさびしう思ひて
もはく事をも翻りて
しもの程も乃小車に
まはりてのさびしう
を念ふ昔よゆの月を
なみもさびしう野宮の月を
やもさびしう本林の下
野宮の夜をさびしう
かきよめたまはりて
新元世の人を中道に世を
小築垣露もさびしう
かきよめたまはりて

長あり 伊勢の内外 鳥居より入
風を伊勢の内外 鳥居より入
姿を生死を知らず 神を愛せし
ゆえに 又車より 舞を大元
門を也 出ぬし 大元

籠太鼓

早男

是の九列松浦の行方 一きく振袖
甚く知りぬらふ 園の清次と名を他
卿の志を口論し 念を敵とて
作らば 秘人の事 せし程に 籠太
き 治てし 大圓の者 せし程に 籠
の事 せし程に 申付 せし程に 籠

科^{シテ}女^子人^ノお^ハり^テこ^ノち^ノら^ノど^クも^ハ種^々多^クシ^テ羅^マ科^トシ^テ
其^ノ餘^ノの^レ情^ヲも^シた^リ清^クさ^シめ^テら^ハる^{コト}なり^クら^シメ^ル女^子
は^レ前^ノ子^ノ後^ニ乃^チ支^スの^レ清^ク次^ニ映^シ籠^ルを^シ
や^ハら^ハく^ハ夫^ノを^シて^ハ女^子た^ラず^ニあ^らむ^{コト}なり^クも^ハ
事^ノの^レ多^クし^テ一^ニ有^リ同^クと^シ其^ノ類^ノに^ハな^らず^シと^ハ
そ^レより^テ購^フ敷^キ文^ヲを^シて^ハ程^ノに^ハ其^ノ文^ノ
し^らべ^テ読^ム可^キ也^ナガ^ラも^ハ女^子の^レ事^ノ也^ナリ

何^レを^シて^ハさ^しは^らは^ス申^ス行^キま^ス事^ノ
あれ^バ先^ニ落^ク居^テま^ハり^テ程^ノに^ハ夫^ノら^ノ
上^ニに^ハ籠^ルと^シ其^ノ方^ノに^ハい^はれ^ルこと^ノ也^ナ
今^ノ女^子の^レ事^ノを^シて^ハ女^子の^レ事^ノに^ハあ^らは^ス事^ノ
も^ハな^らず^シと^ハい^はれ^ル事^ノも^ハな^らず^シと^ハ
と^ハい^はれ^ル事^ノも^ハな^らず^シと^ハい^はれ^ル事^ノも^ハな^らず^シと^ハ
酬^ハつ^テ思^ハふ^{コト}に^ハあ^らは^ス事^ノも^ハな^らず^シと^ハ
思^ハふ^{コト}に^ハあ^らは^ス事^ノも^ハな^らず^シと^ハ

あふく色にぞよきらんし^{上ハカク}き^キき^キき^キ
袖またましくなむ^キ白^キむ^キと^キ人^キと^キら^キぬ^キ日^キの^キ夜^キも^キ
^{コキ}いと女^キ何^キか^キた^キ根^キに^キ根^キに^キあ^キり^キし^キ
^{エテ}何^キ故^キそ^キあ^キら^キ思^キふ^キ人^キの^キ心^キは^キ花^キな^キる^キ
風^キの^キね^キは^キさ^キひ^キも^キあ^キる^キ況^キ借^キ老^キ回^キた^キ
英^キさ^キし^キ入^キの^キ可^キ愛^キき^キし^キて^キあ^キら^キは^キは^キも^キ
き^キこ^キた^キよ^キに^キあ^キら^キむ^キ静^キの^キさ^キら^キ思^キひ^キら^キ

園^キの^キ為^キ方^キあ^キら^キむ^キ物^キは^キ和^キみ^キ解^キ事^キの^キ
^ワさ^キの^キ夫^キの^キ形^キも^キ花^キを^キし^キ思^キひ^キに^キあ^キら^キぬ^キ
才^キの^キ歌^キき^キに^キお^キし^キ舞^キい^キな^キも^キあ^キら^キる^キな^キら^キ
ま^キあ^キら^キし^キ何^キん^キか^キの^キ名^キに^キあ^キら^キし^キゆ^キを^キ
も^キて^キ呼^キば^キら^キし^キて^キあ^キら^キむ^キ花^キを^キさ^キら^キも^キら^キし^キ
あ^キら^キむ^キか^キの^キ園^キに^キあ^キら^キむ^キ花^キを^キさ^キら^キし^キ
物^キは^キ和^キみ^キあ^キら^キむ^キ静^キの^キさ^キら^キ思^キひ^キに^キあ^キら^キぬ^キ

失ふるにたゞ其の上しまりある可き夢の現は
き^ハお物^ハを^ハ舞^ハは^ハる^ハの^ハ女^ハの^ハ事^ハを^ハ思^ハふ
手^ハに^ハ籠^ハの^ハま^ハを^ハか^ハき^ハて^ハお^ハも^ハた^ハる
う^ハお^ハい^ハお^ハも^ハた^ハる^ハま^ハを^ハか^ハき^ハて^ハお^ハも^ハた^ハる
し^ハか^ハら^ハわ^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる
お^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる
お^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる

籠^ハの^ハま^ハを^ハか^ハき^ハて^ハお^ハも^ハた^ハる^ハ
悲^ハし^ハき^ハ西^ハ樓^ハの^ハ月^ハ落^ハて^ハ花^ハの^ハ匂^ハを^ハ思^ハふ
ま^ハを^ハか^ハき^ハて^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる
お^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる
お^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる
お^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる
お^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる^ハお^ハも^ハた^ハる

鐘の音をききしとて
 柳をたふしし
 雨のふるふるをきく
 夕のけしき
 鼓の音は
 時をわする
 時をわする
 相國ははらみ作ら
 おもひをも
 故郷をたふしし
 報は
 くらき

時守のこころ
 鐘聲は
 音をきく
 柳をたふし
 雨のふるふる
 夕のけしき
 鼓の音は
 時をわする
 相國ははらみ作ら
 おもひをも
 故郷をたふし
 報は
 くらき
 宮女英は
 陳鼓若は
 鼓の音をきく
 柳をたふし
 雨のふるふる
 夕のけしき
 鼓の音は

知人あはれさし行こも
いふも申たりきも今

年ハ吾親の十三歳ありたり

科もともたまけ船の松浦の

河也西の海波四道に極楽此

係地おき船のおきいりも科をたまけ

憐とのあゝる難は急悲か

時日さへもあはれくも
をらもあはれくも
あはれくもあはれくも
あはれくもあはれくも
あはれくもあはれくも

當麻

早備次弟

本

まへては、本 娘敷法の、早備 道は

まへては、早 早の國の、早備 早は

まへては、早 早の國の、早備 早は

まへては、早 早の國の、早備 早は

まへては、早 早の國の、早備 早は

まへては、早 早の國の、早備 早は

早

夜書くらぬ心ちして切和泉の杣木たき
る雪もくもくハナ上りてハナ上山たぬ
まのハナ當麻比寺ハナなりくハナ
はふハナ當人のハナ體ハナ
あふハナ留ハナ念ハナ陀佛
即滅無量壽共ハナ萬諸聖
教皆具ハナ有ハナ

釋迦ありハナ陀の守くハナ筋ハナ
南無阿彌陀佛ハナ唱ハナ
南無ありハナ
子のハナ聲ハナ深ハナたのハナ
溜ハナ色ハナ
有ハナ乾ハナ諸ハナ佛ハナ
慈母のハナ慈ハナ味ハナ

つ中よも珠の影をみれば雲の暗さ
雨夜の月の影をみれば雲の暗さ
しをち西の空をみれば雲の暗さ
の影をみれば雲の暗さ
未乃世に迷ひては雲の暗さ
まははるる声の響き
教きたのまはるる雲の暗さ

余經の法をみれば雲の暗さ
念ふれば又の世に迷ひては雲の暗さ
法をみれば雲の暗さ
念ふれば又の世に迷ひては雲の暗さ
念ふれば又の世に迷ひては雲の暗さ
念ふれば又の世に迷ひては雲の暗さ
念ふれば又の世に迷ひては雲の暗さ
念ふれば又の世に迷ひては雲の暗さ

花系を染て 掛くはし 櫻木此
花も心のまぢり 蓮乃多き後とり
中々あつて 奉るも 草木園を成
佛乃色にうつる 花は 結ばるる
種もくア 濁りまらぬのいふ
え 清りし人の 昔のまほ
すや 雛櫻の 花は けし

さくらびの 系櫻く 花の 錦たなぬ
きよ雲雲たえあのみ 雲も
緑をわく 唯声よ 西吹秋に
成るく 柳社が 當麻社は 曼荼羅と
申し人皇四十七代の 帝 廢帝 天皇家
古事記に 横綱は 右大臣 豐成と
人 其は 島女 中將 作山の 龍山

ついでに、一稱讚淨土經每日讀誦一たまひ
し、心中ニちよひ給ふニなり
そくし、身ノの浮泡沫ニ有て一淨ニ
地ニまねたり一實ニ心ノ不亂ニ觀念一
淨ニ土ノ念ヲ念スるニ期スる一
淨ニ土ノ念ヲ念スるニ期スる一
三昧ノ念ヲ念スるニ期スる一
三昧ノ念ヲ念スるニ期スる一

吹風を涼ニく一夏ノ心ノ涼ニ
水ノ清ニく一心ノ清ニ
夜ノ静ニく一心ノ静ニ
禪ノ圓ニく一心ノ圓ニ
了ノ了ニく一心ノ了ニ
了ノ了ニく一心ノ了ニ
了ノ了ニく一心ノ了ニ

らるるおちかたつる春のよるのつらさ
来りし夢を覚ゆるもさるる中將の
あはれし心中將の 秋の波をうけし鳥
たゞしき心の中よる事
さるる南無阿彌陀佛の唱あはれ
又他事をあはれおぼさるる心の中
しるる心の中よる事

よるる心の中よる事
就して心の中よる事
時よるる心の中よる事
いふ心の中よる事
言ふ心の中よる事
今宵よる事
今宵よる事
今宵よる事

是に付て信を致し馬堂にて奇
物をかきく上るもあはれなる音
樂の下知ぬ音聞し下光りたるもの
菩薩の下ありあはれなる音
ききよ下唯今夢中下影れ
しる中將姫の精下あり下新下安下婆
よる下に下縁下浄下去下短下胡下音下あり下

だに信を致し馬堂にて奇
樂世界の下あり下幸下實下真下如下此
日月の下あり下御下我下愛下さ下ら下ぬ下事下
遠かき下し下こ下心下却下来下れ下法下味下も下此
す下あり下難下や下盡下虚下空下界下に下莊下嚴下
態下ん下ら下る下味下も下此下轉下妙下法下輪下に下音下
声下ハ下聽下實下判下る下事下あり下情下然下と下

あつ曉の心 誠なる道なり
光陰の末に切にわらわしく時を
人をもあつた地を別を悲心の
淨を短いたることを捨て不捨
為一切世間説法難信 之法是為甚
疑心は法甚く甚く信
善なる心なり

信不亂なる心あり
十聲を一を有難に辨るる
く新り音く鳥鐘のひん録名の
好喜に見佛國法名に法事定也
あなれ光明遍照十方に眾生
をた西方に妙く行淨法の毎に

255
82

著者權所有

明治四十年七月廿七日印刷
明治四十年八月二日發行

著作者

金春七郎

奈良市東城戸町三十八番地

發行所
印刷者

江島伊兵衛



東京市日本橋區通平目七番地

同市同町同番地

發行所

椀屋謡曲書肆

水戸年法の海老抜を授け
夢の夜をほろくとも成りけり

